

北海道国立大学機構の産学官金連携統合情報センター（IIC）のニュースレターです。定期的に三大学の教育研究活動や行政・サービス機関、産業界からの最新情報を分析・整理して皆様にお届けします。

北海道広域連携プラットフォーム設立

大学は、従来から教育と研究が使命とされてきましたが、社会の変化とともに大学に期待される役割も変化し、現在は教育と研究に加え、得られた知見を広く社会に提供し、社会の発展に寄与するという社会貢献が第三の使命として位置づけられています。第三の使命としての社会貢献について、これまで小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学の3大学は、様々なコンソーシアム、プラットフォーム等のネットワークを形成して地域連携や産学官金連携をすすめ、地域課題の解決に一定の成果を得てきました。しかしながら、これまでのネットワークにおいては、地域の将来ビジョンについての議論や、地域課題を解決するための分析、ネットワーク間の情報共有が十分であったとはいえませんでした。

そこで、さらなる地域課題の解決・イノベーション創出のために、大学が核となって地域課題を分析し、情報発信するとともに、北海道国立大学機構・3大学、行政・サービス機関、産業界のそれぞれが当事者意識をもって地域課題に向き合い、恒常的な議論の場を設ける枠組みとして、「北海道広域連携プラットフォーム（Hokkaido Regional Partnership Platform ; HRP）」を産学官金連携統合情報センター（IIC）に設立してまいります。

北海道広域連携プラットフォーム（HRP）は、地域の中核的存在としての大学や研究機関、行政・サービス機関の他、民間企業や経済団体（以下、関係機関。）にも参画いただいて将来ビジョンや地域課題を共有するとともに、北海道広域連携プラットフォーム（HRP）の構築により、関係機関それぞれの知見を結集し、学生・社会人の方々への情報発信、教育・研究活動による人材育成、国家プロジェクト・共同研究の推進等を通じて、地域課題の解決・地域社会の持続可能な発展に取り組んでいきます。

理事長挨拶

北海道広域連携プラットフォーム（HRP）は、道内外の情報収集と、関係機関の方々との情報共有ネットワークを構築することを目的に、北海道国立大学機構 産学官金連携統合情報センター（IIC）に設置されました。これまで、地方大学・自治体・産業界は独自の情報発信をしてきましたが、相互の交流は必ずしも十分でなく、北海道全域の地域課題解決に向けて、地方大学・自治体・産業界が一体となって議論する場が求められてきました。

このような議論の場としての北海道広域連携プラットフォーム（HRP）を活用し、産学官金連携統合情報センター（IIC）は、地域の中核大学として中央省庁の競争的資金獲得、大手企業を巻き込んだ地域課題解決型共同研究の立ち上げ、3大学の特徴ある研究の知財化とスタートアップへの牽引に向けて取り組んでいきます。

機構・3大学の研究領域（強み）

Elsevier社のSciValにより、3大学（小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学）に在籍する約370名の研究者の成果を分析すると、機構・3大学の強みがわかります。3大学が経営統合して誕生した北海道国立大学機構は、商学、農学、工学の分野にまたがった研究領域を有し、これらを融合した分野に強みがあるといえます。

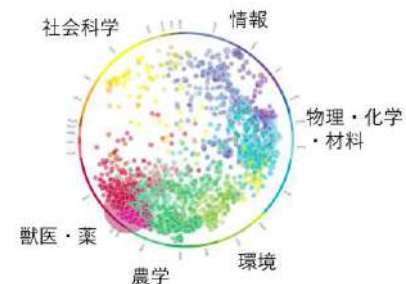
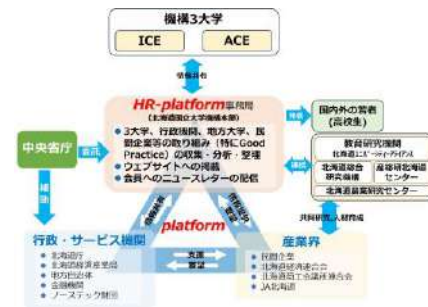
北海道国立大学機構が誕生してから約2年半において、3大学が有する知見を融合した研究が次々と誕生しています。今後も、商農工連携とともに、北海道広域の課題を解決するための連携をすすめてまいります。

3大学の学生の“移動”状況

3大学の入学生、卒業生の動向を調べ、学生が、北海道内／道外のどこから来て（入学者）、どこへ行くのか（就職先）を示します。

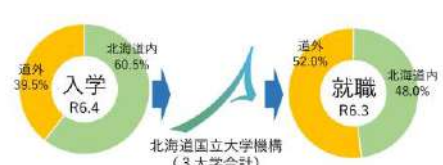
3大学の学生は、道内からの入学者の割合が高いですが、就職時には道外へ出る割合が高くなっています。どのように道外から入学者を呼び込むか、また、どのように道内に就職し、定着してもらうか、今後の安定した若手人材の確保に向けて、3大学がさらなる魅力的な研究、フィールドの提供とともに、SDGsへの積極的な取り組みを若手人材にアピールしていくこと、さらに魅力ある就職先の確保が重要になってくると考えます。

北海道広域連携プラットフォームは、北海道における様々な課題を共有し、産学官金連携によって解決に導く場です。皆様からのご意見、ご要望をお待ちしています。



機構・3大学の研究領域

Elsevier社SciValデータ（2014-2023）・2024/9/10データ取得



3大学の学生の“移動”状況

